

message from textband

phonda

はじめまして！こんにちは！こんばんは！おやすみなさい！

僕がメンバーの3人を誘ってこのバンドで何をやろうと思ったのか、一言で言うとじつは「ゲーム」なのであります。バンドでゲームをプレイした結果が、成果物として残る「遊び」です。

言葉というのは、24時間365日、年会費も月額使用料もなく、誰にでも使えるものなので、もっと使って、もっと遊んだほうが良いと思ってます。同時に、言葉は何にでもなることができ、たとえば僕は文学と音楽の中間にある「文楽」をやっているつもりで、だからチームではなく「バンド」としたのです。というのを、今考えました。すみません。

いやはや、しかし遊びというのは手加減をすると面白くなくなってしまうので、馴れ合いでやっているつもりは微塵もないです。

プレイには「演奏する」「遊ぶ」「再生する」「演じる」など、たくさんの意味があって、つづりは異なれど「祈る」という意味にもなる。ここがとても重要で、textbandは言葉をプレイするバンドでありたいと思います。

ダジャレみたいになってしまっでごめんな、みんな……俺はもうダメみたいだ……あとは任せた！……ガクッ。

どうぞよろしく。

cheapeer

ありがとうございます。私はcheapeerです。

ツイッター上で、ふざけ倒していた2010年夏、phonda氏からの突然のダイレクトメッセージを受け、「テキストバンド」のメンバーになることになりました。その当時、喜びと焦り、期待と不安、寂寞と悲哀、男と女、サイモンとガーファンクル、左ト全とひまわりキティーズ、hide with spread beaver、hitoe's 57 moveといった感情で胸がいっぱいになったことを覚えております。

何かものを創り出す、生み出す、じぶんのことばで何かを残す、ということに興味はあったのですが、なかなかやれないで（やらないで）ここまで生きてきました。このようなきっかけを得られたことはじぶんにとって本当に良かったなと思っています。

力の限りドラムを叩いてみました。ご堪能ください。

ちーぱー

こんにちわ。こんばんわ。初めましての方は初めまして。

この度、テキストバンドというものを始めました。

結成は少し前のことで、2010年8月のことだったと思いますが、それからこつこつとメンバーの4人で連絡を取り合いながら色々な形で文章を書いて遊んできました。具体的には、誰かが書いた物語の序文から打ち合わせもなくリレー形式で物語を続けてみたり、ありもしない商品に対するレビューを書いてみたりといったもので、様式のようなものは特にありません。いい大人が自由にふざけています。

テキストバンドは簡単に言えば、内輪で楽しむ現代の交換日記のようなものと僕自身は思っています。

交換日記がそうであるように、このテキストバンドが行っている活動も「作品」などと言えるものではありません。僕に限って言えば、そういったものを目指しているわけでもありません。作品というのは「様々な制作過程を通し、結果としてできる他人が楽しむためのもの」だと僕は思っているのですが、それで言うと僕は「自分達が過程を楽しむために作っているもの」としてテキストバンドという活動を捉えており、結果としてできたものが面白かろうがつまらなかろうがどっちでもいいかな、と思っています。（もちろん面白いに越したことはないんですが）

そんな燃えカスのようなものを公開して何をしているんだ、と言われたら「うへえ、すいません」と苦笑いで返す他ないんですが、どうせ出来たものなら公開したいと思うのも人の情だということで許して下さい。

そんなわけで、ここに置いてあるのはキャンプファイヤーの燃えカスのようなものです。僕らが全力でふざけながら楽しんだキャンプファイヤーの跡です。なんだそんなもの、と思われる方もいるでしょう。……というか、まあ、僕もそう思います。しかし僕にとっては本気で試行錯誤しながら遊んだ末にできた燃えカスであり、愛すべき燃えカスでもあります。

それがこのpabooに置いてあるテキスト達です。

もし楽しんで貰えたならば、嬉しいです。

"textband" は、フォンダ (text) 、チーパー (text) 、かい (text) 、おしこまん (text) の4アカウントで2010年8月に結成され、現在まで活動している "バンド" です。

textbandの活動は、非公開のブログやtwitterなど、主としてインターネットを通して行われています。時間や距離を超えて、メンバーそれぞれが、これまでの人生の中で自覚的／無自覚的に鍛えあげてきた "言葉" という "楽器" を持ち寄って、日夜セッションが繰り広げられています。

そこでは、他のメンバーからの会心のフレーズにしばし心を奪われたり、負けじと知恵をふり絞って応戦したり、時に試すような気持ちでトリッキーな言葉を選んだり、そこから返ってきた言葉にただただ感動したり、いろんなドラマが生まれています。

「ただ音を出しているだけで楽しい」のとまったく同じように「ただ言葉のやりとりをしているだけで楽しい」のは、気が置けない仲間との居酒屋での他愛のない雑談のようでもありました。

けれども、もちろん、これはあくまでバンドであって雑談ではありませんし、メンバーはみんな、本気で言葉を鳴らしています。これはぼくだけかもしれないかもしれませんが、しょうもないことしか言えなくなったら、バンドを干されてしまうんじゃないかとさえ考えています。

しかし、この緊張感はとても心地よいもので、だからこそ、楽しいのでしょう。決して結成されないバンドの名前ばかりを考え続けていた僕も、ようやく胸を張って、「バンドをやってる」と言うことができそうです。

ぼくたちの活動がどのように受け止められるのか、はたまた誰にも受け止められずに終わるのか、まったく想像することができません。果たしてこれが "作品" と呼ぶに値するものなのかも分かりません。ただ、自信を持って送り出していることだけは、たしかです。

ぼくたちの少し大げさな交換日記を、楽しんでもらえたらとても嬉しいです。

そして、願わくば、いつの日か、あなたとセッションできる日が訪れますように。